

## ART保険適用後のOHSS対策に対する評価

日本受精着床学会 2023.7

ARTにおける調節卵巣刺激において、卵巣過剰刺激症候群（OHSS）は、時には重篤な状態を引き起こす可能性のある、注意すべき合併症のひとつです。

OHSSの発症リスク因子としては、多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）やAMH高値例などですが、より多くの卵子を獲得することを目的とした場合には、程度の差はありますが、OHSS発症は避けられないことも多いのが現状です。

当院では、OHSSの重症化予防および軽減を目的として、

ART保険適用前の2022年3月までは、カバサール（カベルゴリン）にレルミナ（レルゴリクス GnRH antagonist）を併用した方が、OHSS軽減効果が高いことを報告してきました。

保険適用後の2022年4月以降はカバサールのみ使用、またはカバサールにフェマーラ（レトロゾール）を併用しています。

\*レルミナは今回保険適用とならなかったため、保険でのARTでは使用できない状態です。

今回、保険適用前と後で使用薬剤の変更に伴い、そのOHSS対策効果について検討した結果、フェマーラ併用において重症OHSSの発症は認めませんでした。フェマーラには卵巣腫大を抑える効果はないため、腹部が張った感じなどの症状の発現は多く、また採卵後の月経開始までの日数短縮効果は認めませんでした。

\*採卵後に月経が開始するとOHSSは改善してきています。したがって、月経が早く来るということはOHSSの改善が早いということです。

レルミナを併用した方が、卵巣腫大も有意に改善し、月経開始までの日数も有意に短縮したことより、よりOHSS改善効果を高めるには、レルミナ併用が有用であると考えられました。

	カバサール + フェマール投与	カバサール + レルミナ投与
採卵7日後の卵巣サイズ (mm)	45.2 (35-75.5)	38.5 (26-73.5)
採卵～ 月経開始までの日数 (日)	12 (4-15)	4 (2-44)

現在、レルミナはまだ保険での使用は認められておりませんが、今年より適応外使用として、同じGnRH antagonistであるセトロタイド、ガニレストの使用は認められており、当院でも使用しています。

ただし、セトロタイドもガニレストも注射薬であるため、内服薬であるレルミナを使用できた方が、患者さんの負担は少なくなります。

ART治療においては、多くの卵子を得ることも大事ですが、合併症であるOHSSをなるべく抑えることも大変重要です。

今後、保険で使用できる薬剤も変わってきて、より良いARTを提供できるようになってほしいと思います。

院長 園田桃代